

# OMNIBUS

大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報

C O N T E N T S

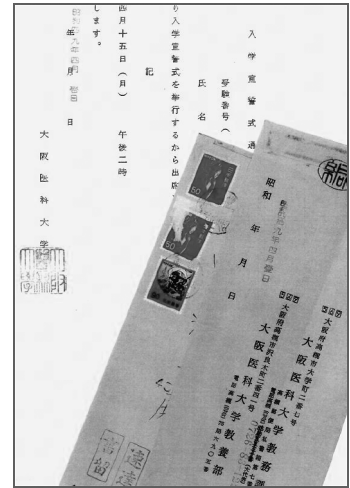
大阪医科大学別館〔佐野浩一〕	2
ずーっとずっとだいすきだよ〔長嶧美奈子〕	3
書評「暗号解読」〔西村保一郎〕	5
テレビを見るより本を読もう〔安田裕美〕	6
出張報告〔村上公子〕	7
図書館利用状況	8
本学教職員著作寄贈	10
お知らせ	10
図書館業務日誌	11
編集後記	12



# 大阪医科大学別館（国登録有形文化財）

佐野 浩一

昭和四十九年四月一日付け、大阪医科大学から私宛の封筒がある。中には和文タイプで打たれた文書を謄写版で印刷した書類。大阪医科大学の入学宣誓式とオリエンテーションの案内通知である。場所は『別館三階』と記されている。記録を詳細に調べたわけではないが、昭和四十九年に挙行された学部23期生の卒業式と私たち学部29期生の入学式を最後に、この別館三階で式が行われることはなくなったようである。

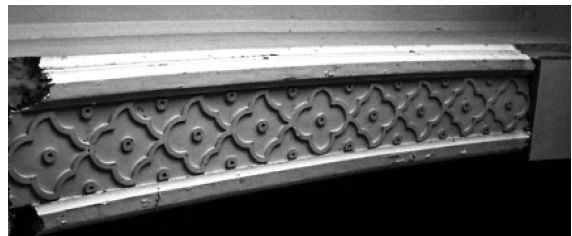


昭和四十八年には教養部（現さわらぎキャンパス）の校舎が増築され、私たちが入学した昭和四十九年には臨床講堂が竣工しており、昭和五十年には本部キャンパスの講義実習棟が竣工するなど大学整備が急ピッチで行われていた頃の話である。それぞれの建物には次期建築計画に資するように様々な工夫が構築物の随所に凝らされている旨をことあるごとに法人関係者や教授が新入生たちに説明していたのが印象的であった。

昭和五十年からは、卒業式や入学式は臨床第1講堂で挙行されるようになった。同時に『別館』は階段教室や講堂などを改装、附属看護専門学校第2看護学科の校舎として使われることになり、私は入学式以後看護専門学校の非常勤講師になるまで、再び『別館』に足を踏み入れることはなかった。

四月十五日(月)	
時刻 時 九時三十分	場所 別館三階
時間 九時三十分	場所 別館三階
時間 十時	場所 別館三階
時間 十一時	場所 別館三階
時間 十二時	場所 別館三階
時間 十三時	場所 別館三階
時間 十四時	場所 別館三階
時間 十五時	場所 別館三階
時間 十六時	場所 別館三階
時間 十七時	場所 別館三階
時間 十八時	場所 別館三階
時間 十九時	場所 別館三階
時間 二十時	場所 別館三階
時間 二十一時	場所 別館三階
時間 二十二時	場所 別館三階
時間 二十三時	場所 別館三階
時間 二十四時	場所 別館三階
時間 二十五時	場所 別館三階
時間 二十六時	場所 別館三階
時間 二十七時	場所 別館三階
時間 二十八時	場所 別館三階
時間 二十九時	場所 別館三階
時間 三十時	場所 別館三階

別館三階講堂の南側に舞台があったこと、その両袖に出入り口があったこと、斜めに伸びた柱が天井にアーチを描く斜柱耐震構造、壇上の学長から「諸君、不動明王の如くなり給え！」という告辞があったことをおぼろげながら覚えている。それが私の『別館』に関する思い出であった。



平成14年に、ヴォーリズ設計の『別館』を保存しよう市民からの提案を受け、改修と歴史資料館設置の準備がはじまった。有形文化財の登録手続きに関する高槻市と大阪府との交渉・調整はほとんど済んでおり、『別館』を如何に残すかというのが大きな検討課題であった。社会、地域、学問、学内への影響や行政、地域住民、医師会との関係など様々な検討が加えられ、「別館の耐震工事」を

最優先する方針が決まり、『歴史資料館設置要項』が作成された。この要項によって高槻市との協定のもと『別館』を公開することになり、本部キャンパスが都市再生緊急整備地域指定の政令を受けるひとつの要件になった。



また、折りしも大学ではキャンパス集約に向けたスペースマネジメントがはじまり、大学に関わる歴史的資料が散逸しはじめる中、学内各所に保存されている資料を収集・整理しながらの『歴史資料館設置要項』作成であった。この資料整理で得られた様々な知見が、平成17年の私立学校法改正による本学校法人の寄付行為第3条の改正に大きく貢献した。

様々な影響を及ぼした国登録有形文化財『別館』を眺めていると、論語為政にある『温故而知新、可以為師矣』と、恩師から授かった『温故而致新（故を温め、新きを知るに止まらず、それを師として新しきに致る）』を思い出し、これを記した『先師先哲遺影』を医学概論の講義資料として昨年復刻した。

本年、平成19年、大学院の学位記授与式と大学院入学式が厳かに『別館』三階講堂で挙行政され、故を温め少し新しきに致ったような気持ちにさせていただいた。私の教室には赤痢菌の発見者志賀潔先生から頂いた『先人の跡を師とせず、先人の心を師とすべし』という言葉が伝えられている。居並ぶ新入生たち、彼らが後に様々な課題を発見し、解決するヒントになるような『心』を残さなければならない。

（さの・こういち 微生物学教授、看護専門学校長、歴史資料館館長代行）

## 「ずーっとずっとだいすきだよ」

長 嶧 美奈子



私には大好きな絵本があります。それは、「ずーっとずっとだいすきだよ」(ハンス・ウィルヘルム作:評論社)です。この本に出会ったのは今から1年前のことで、私がホスピスケア認定看護師教育課程を修了し、フォローアップ研修の際にある講師から紹介されたものでした。ホスピスや緩和ケア病棟では、患者さまやご家族と「死」について語ることが多く、また絵本などを通して死前教育がなされています。ホスピスケア認定看護師として、患者さまやご家族とどのように「死」について語り合えるかという課題があった私は絵本をひとつのツールとしたいという希望もあり、その絵本をすぐに購入しました。初

めて読んだときは、じーんと気持ちが温かくなり、涙がでてきた感動を今も昨日のこのように覚えていてます。

この絵本の主人公は、「エルフィー」という犬と「ぼく」です。「ぼく」の成長とともにエルフィーも成長していきます。年月が経って「ぼく」の背が伸びる一方で、愛するエルフィーは太って動作も鈍くなっていき、獣医さんは「エルフィーは歳をとったんだよ。」と言いました。ある朝、目が覚めるとエルフィーが死んでいました。深い悲しみにくれないながら、「ぼく」にはひとつなぐさめがありました。それは……毎晩エルフィーに「ずーっとずっとだいすきだよ」と言っていたことだったのです。「ぼく」は幼少の頃からエルフィーと共に毎日という時間を過ごしていました。その中で自分の想いをエルフィーに言葉で伝えるという「時間」を大切にしていました。

日本人はお互いに相手の心を察し行動するという文化があり、相手を慮ることができる素晴らしい文化であると思います。しかし、残された時間の少ない人との関わりにおいては、特に言葉で語り合うことが重要で、その過程を通して相手の存在価値を認め自尊感情を高めることにつながります。また、相手を大切に想う気持ちは、二次的には自分自身をも大切に想うことでもあります。なぜなら人間は相手があって初めて自分という存在あるのですから。

この絵本を通して私は、大好きで大切な存在である相手に言葉や態度で伝えることの大切さ、そして伝えていたからこそ亡くなったあと自分自身がなぐさめられることを「ぼく」を通して感じる事ができました。同時に、私はがん患者さまとご家族のことを思いました。看取りの時期が近づくにつれ、患者さまは自分のことが自分で出来ないことが多くなります。身体的苦痛のみならず、死への恐怖や実存的苦痛・自己存在への苦悩など全人的苦痛を体験されます。同様にご家族もつらく、張りつめた気持ちで毎日を過ごされています。私はそのような状況のなかで、看取りを迎える患者さまとご家族にホスピスケア認定看護師として何が提供できるのか自問自答を繰り返していました。そんな時期にこの絵本は私に一つの答えを導き出してくれたように思います。それは、患者さま自身とご家族をありのまま受け入れ、最期のその時まで大切な存在であることを誠実な態度で示し言葉で伝え続けることです。そして、ご家族にとって大切な存在である患者さまに対して、「ご家族の言葉で想いを伝えることの大切さと、その時その時を大切に過ごすことの大切さ」を伝える役割を担っているということです。私はホスピスケア認定看護師として、最期のその時まで患者さまとご家族に寄り添い、希望を支え続ける看護を提供したいと考えています。

現在、状況に応じてこの絵本を用い、がん患者さまやご家族と語り合うことがあります。その人の人生経験や体験によってこの絵本から感じるものはそれぞれであり、「エルフィー」なのか「ぼく」なのか立場によっても異なるでしょう。私自身も何年か経ってからこの絵本を開いたときに感じることは今と変化しているかもしれません。自分自身の価値観を押しつけるのではなく、相手の価値観を尊重し配慮する謙虚さを持って語り合う姿勢を大切にしていきたいと思っています。

(ながえき・みなこ ホスピスケア認定看護師)

## 『暗号解読』 - ロゼッタストーンから量子暗号まで -

サイモン・シン 著 青木 薫 訳 新潮社

西 村 保一郎

著者はベストセラーの科学読み物を目指して本書を書いた。第1の目標は、暗号作成者と暗号解読者の戦いの歴史を書くことであった。本書の始めの4章では、幾つかの戦争に関連させて、その当時の暗号の仕組みや解読法が作られていく過程が書かれている。暗号は読者の知的好奇心も満たしてくれる程度には詳しく、さりとして詳しくすぎて嫌になることのないように絶妙な匙加減で説明されていて、戦争の逸話と相俟って話を盛り上げている。暗号の進化の過程を辿るために4つの章は順番に読み進むことが必要である。他人に話したくなる挿話が満載なのだが、本書をこれから読む人の興味を殺がないように、ここでその幾つかを書くことは我慢しよう。

第5章では古代文字の解読が扱われている。エジプトのヒエログリフの解読に挑んでいたシャンポリオンが、或る4文字がファラオの名前ラムセスを表すことを発見し、ヒエログリフは定説の表意文字でなく表音文字だと分かり、その後の彼自身の解読成功に繋がった話は有名である。しかし、この発見を兄の仕事場に駆けつけて伝えた彼が、そこで気絶し5日もベッドに伏せ続けたという挿話は、果たして実話なのか脚色なのか。本書には参考文献の類が殆ど挙げられていない。デイヴィッド・カーン著「暗号解読者たち」が、巻末の謝辞の中で先行の書として挙がっている程度である。

著者は、現代は暗号が過去のどの時代よりも重要となっていることを書くことを第2の目標とした。残りの3つの章は現代と未来に充てられている。RSA（リヴェスト、シャミア、アドルマンの3人の頭文字）暗号は現代の情報化社会を支えている。80桁程度の素数2つの積（暗号化鍵、公開）を用いて暗号化し、その2つの素数（復号化鍵、秘匿）を用いて復号するこの暗号の仕組みも、巻末の補遺の解説を見れば完全に理解することが出来る。160桁の暗号化鍵と暗号化された文章とが通信途中で傍受されても、160桁の数の因数分解が全く不可能である現在では他人が復号化鍵を得る術はなく、この暗号文は解読されない。コンピュータの容量や速度が進歩して160桁の数の因数分解が可能な時代が来ても、その時代の因数分解能力を超える桁数の鍵を用いれば解読不可能な暗号が作れる。数学の現状ではRSA暗号に根本的な解読法が出現するとは思えない。ただし、解けそうもない暗号が解かれてきた歴史を振り返ると、この暗号が解読される日もやがて来るのかも知れない。

本書にはRSA暗号にまつわる逸話も多く書かれている。ジーマーマンはRSA暗号でメールをやりとりするためのPGP（プリティー・グッド・プライバシー）というソフトを開発した。FBIはジーマーマンを告発しPGPを非合法化しようとしたが、いち早くPGPを個人使用にフリーで提供したジーマーマンの策に遅れを取り、現在PGPはフリーな合法的ソフトとなり、ジーマーマンも自由の身となった。現在も各国が暗号研究を行なっている筈である。国レベルの暗号研究では、成果は秘匿され研究者の名前も分からないことも多い。1997年に英国で公開された資料で、実はRSA暗号は米国のRSA達の1977年の論文より4年早く英国で発見され、それを英国政府が隠蔽し続けてきたこ

とが分かった。

本書を私は、或る大きな書店の数学・統計学書の書棚で手に取りそして購入した。原作（著者は英国人、原題は The Code Book）は1999年、日本語訳は2001年に出版された。付録に著者が作った10編の暗号文が載っている。読者が解読して答えを郵送すると最初の正解者1名に1万ポンドが贈られることになっていたが、2000年に既に賞金獲得者が出てしまった。もちろん今も、もう賞金は出ないが、10編を解読する楽しみは残っている。

（にしむら・やすいちろう 数学・教育教授）

## テレビを見るより本を読もう

安田裕美

題字にもあるように、私はテレビを見るならばその時間に本を読みたいと考えている。テレビが普及し始めた1960年代から考えると、テレビ局も随分と増え、番組数もとても多くなった。テレビ番組で面白い番組もあり、決してテレビを批判しているわけではない。それなのに、テレビより本が良いというのには、それなりのわけがある。

私が本に興味を持ったのは、ずっと小さい頃からである。最初は母が家事の合間に本を広げているのを見て、真似をした。夕方赤い光の中で、日本茶を片手に一心に読書をしている母の姿は、とても印象的で今でも心に残っている。学年が上がって部活動や学校での行事が多くなるにつれて時間が取りにくくはなったが、それでも細く長く、読めるときに読みたい本を読んでいる。

本を読み、大きく影響を受けると、その体験は思い出になる。今でも忘れられないのは、小学生の時読んだ『家なき子レミ』である。この本はもともと拾われ子として貧しい夫婦に育てられた少女が、旅芸人の一座に売られ、様々な人と出会ったり別れたりしながら必死に生きてゆくという話である。今思えばありがちな話だとさらっと流してしまうかもしれないが、当時は凄い衝撃を受け、震えながら読んだ。一気に読み終え、この興奮を誰かに分かってほしくて、味噌汁を作っていた母に「凄かった、凄かった」と飛び跳ねながら話した。すると母は「同じ様な年なのに、色々な人がいるよね」という意味のことを言った。その時、子ども心に自分はレミのように何があっても強く、前向きに生きて行こうと思った。この気持ちは今の私にも少なからず影響を与えており、一冊の本が与える影響の大きさに、時々不思議な気分になる。

ところで、私は今、灰谷健次郎の『天の瞳』シリーズを読んでいる。この本は道德の教科書になると感じた。作者は小学校教諭を務めたこともある人で、たくさんの子供や大人を見てきている。その中で感じたことを、具体的な例で伝えようとしているのだと思う。正直にいうと、私にはそれが何なのか良く分からない。登場人物が格好良すぎて自分は真似できないと思ってしまったり、灰谷さんの鋭い考えに怯んだり、また試験前に限って読みたくなるなど、一筋縄ではいかない本だが、灰谷さんが書いた他の本も読んでみようと思っている。

私はこれからも本を読み続けるつもりである。読書をする・しないは人それぞれだし、読書をしたからといって偉いわけではないと思う。でも、私は本から、大切な気持ちをたくさんもらったと

思うから、読書の良さを知らない人達にも分けてあげることが出来れば嬉しい。20歳を過ぎ大人になっていく私は、このごろ育てられる側から育てる側に片足をつっこんだという意識がある。成長をしていく子供に本を読む姿勢を示し、感動を分かち合いたい。そんな職業人になりたいなぁと考えている、今日この頃なのである。

(やすだ・ひろみ 看護専門学校3年)

## 出張報告

### 近畿病院図書室協議会第113回研修会に参加して

村上 公子

2007年3月23日、近畿病院図書室協議会主催の研修会が開催されました。研修会への参加報告をする前に、近畿病院図書室協議会について簡単な紹介から始めたいと思います。

近畿病院図書室協議会は1974年に設立され、会員数は123施設(平成18年11月現在)、近畿圏だけでなく九州地方や関東地方などにも会員を有し、地域をこえて精力的に活動されている団体です。会誌『病院図書館』は、医学図書館でも参考になる業務に関する論文や、普段知ることができないような病院図書室での問題について書かれた論文など、毎号興味深い記事が多数掲載されています。興味を少しでももたれた方は、図書館の職員までおたずねください。こっそりお貸しします。

それでは報告へ移ります。今回参加した研修会では、以下の5つのテーマについて発表がありました。

1. 藤原純子「蔵書構築研究班2006年研究活動報告」
2. 若杉亜矢「国外における一般市民への医学情報提供の現状(文献的考察) 医学図書館による公共図書館への指導」
3. 寺澤裕子「図書館員の専門性に関する文献研究」
4. 神山貴子「Kinki Webcat の使い方 目録サポートチームからの紹介」
5. 松本純子「病院における仮想患者図書室をさぐる 事例を参考に」

どの報告も限られた時間の中で手際よく発表されていたことが、印象的でした。また発表されたテーマは、図書館では重要な業務である蔵書構築に関するものから米国での医学図書館の活動調査まで、バラエティーに富んだものでした。さらに、個人的に関心のあるテーマが多かったこともあり、最後まで興味深く聞くことができました。

病院図書室では担当者がひとりである場合や、他の部署と兼務である場合も多いと聞きます。このように人員面で厳しいだけでなく、予算やスペースに関してもかなり厳しいことも多いそうです。(このごろは病院図書室だけでなく他の図書館もそうなのですが)しかし、日々の業務だけで手いっぱい状況でも、病院図書室を担当されている方々は、とてもパワフルで勉強熱心な人が多いのだなあと感じ、自分も見習わなくてはいけないと反省しました。

研修会は2時間程度で終了しましたが、図書館の業務についてみつめ直すきっかけを私にあたえ

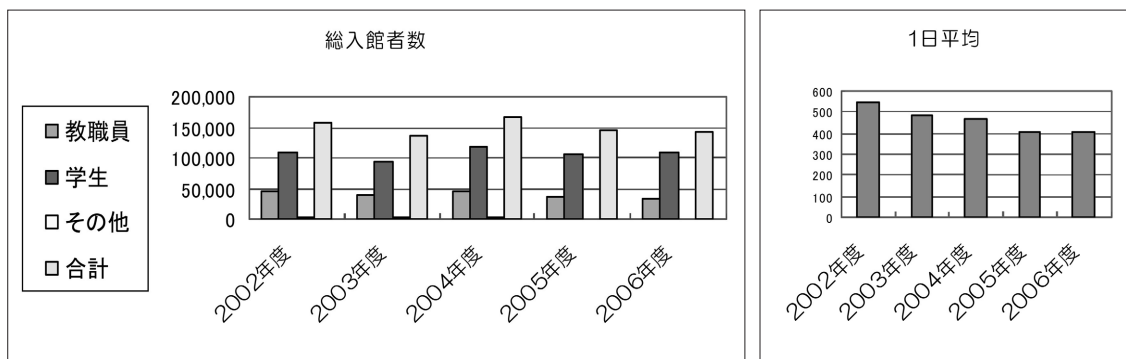
てくれ、とても密度の濃い時間をすごすことができました。今回の研修をいかして、日常の業務をこなすだけでなく、もう少し広い視野で自分のかかわっている仕事を見ることが出来るようになればと思います。

(むらかみ・きみこ 閲覧係)

## 図書館利用状況

(2002年度～2006年度の推移)

### 1. 入館者数

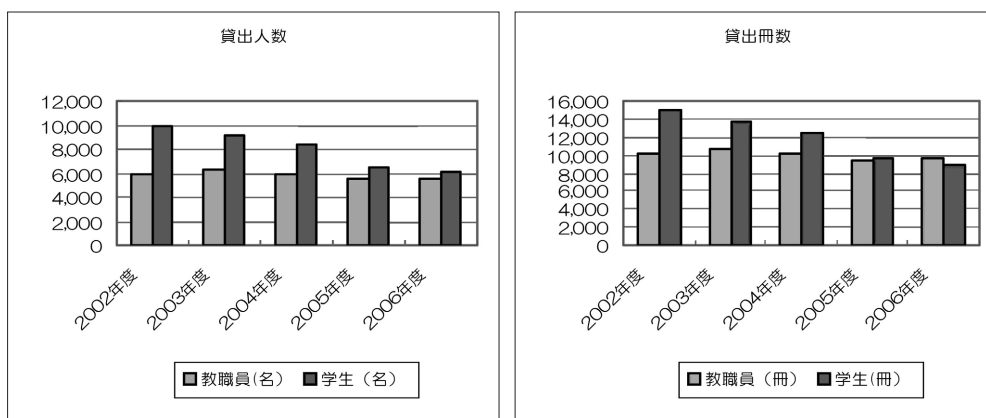


	教職員等	学 生	その他	手集計	合 計	1日平均
2002年度	45,423	110,370	2,133	0	157,926	545
2003年度	40,635	92,943	1,678	0	135,256	488
2004年度	45,052	118,772	1,723	0	165,547	464
2005年度	37,433	106,514	1,238	0	145,185	408
2006年度	32,257	109,590	1,289	322	143,458	403

入館者数計測システムが計測した入館者数の5年間の推移です。2006年度に「手集計」とあるのは、3月のひと月間ほどシステムの不調で計測できなかった期間、扉の開閉カウンターを集計したときのものです。2003年9月から夜間や休日の無人開館が始まり開館時間は増えているのですが、図書館の入館者は減少傾向が続いています。これは、情報のオンライン化により、文献検索や資料の閲覧が図書館以外からもできるようになったため、図書館に足を運ぶことが減ったからではないかと思われます。



## 2. 貸し出し

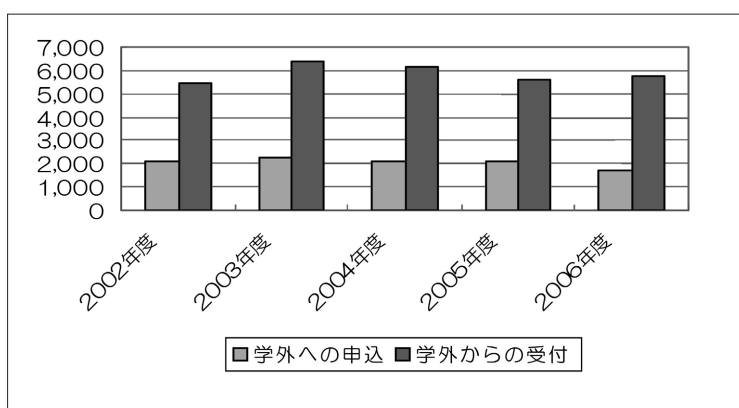


	教職員(名)	教職員(冊)	学 生(名)	学 生(冊)
2002年度	5,886	10,285	9,816	14,961
2003年度	6,367	10,724	9,179	13,809
2004年度	5,992	10,278	8,439	12,478
2005年度	5,458	9,282	6,532	9,698
2006年度	5,438	9,532	6,004	8,895

貸し出し状況も減少気味です。

教職員においては、貸出冊数前年度と比べて2.7%増加しましたが、学生では8.3%減少しました。これも1の入館者数に関連して、「本」だけが資料ではなくなっているということかもしれません。

## 3. 相互貸借



	学外への申込	学外からの受付
2002年度	2,066	5,480
2003年度	2,248	6,385
2004年度	2,074	6,135
2005年度	2,108	5,579
2006年度	1,689	5,718

2006年度は学外への申し込みは激減しましたが、学外からの受付はやや増加しました。増加の理由として病院図書室からの依頼の増加、医療系の大学（学部）の新設が増えたことで、医学関連の文献の需要が高まったことが考えられます。なお、この数字以外に、教職員から受けつけた複写依頼のうち、調べてみるとオンラインで一般公開されていたものが81件もありました。

図書館を取り巻く状況は刻々と変化しつつあるようです。

## 本学教職員著作寄贈

大槻 勝紀（解剖学）

染色・バイオイメージング実験ハンドブック：細胞や組織の形態・遺伝子・タンパク質を観るための染色法と顕微鏡観察のすべて / 高田邦昭、斎藤尚亮、川上速人編集 2006 メディカ出版

奥田 準二（一般・消化器外科）

腹腔鏡下大腸手術の最前線：大腸疾患に対する外科治療の新戦略 2 / 奥田準二編著 改訂第2版 2006 永井書店

杉山 哲也（眼科）

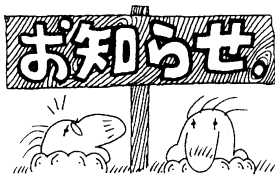
緑内障と眼の病気：患者さん、介護者、医療従事者の手引き / ジョセフ・フラマー原著；桑山泰明、池田恒彦監訳 2006 メディカルレビュー社

麻酔科学教室

麻酔科学 / 兵頭正義著；南敏明改訂編集 第11版 2006 金芳堂

大阪医科大学俳句会

箱馬車：句集 / 大阪医科大学俳句会 2006 大阪医科大学俳句会



### 1．携行品の管理について

最近、学内のみならず図書館内においても盗難事件が多発しています。この半年間でも4件もの盗難がありました。携行品の管理は各自がくれぐれもお気をつけください。

### 2．無人時間帯の入館について

無人時間帯に図書館を利用するには専用のカードリーダーにカードを通して入館してください。このリーダーは施錠と照明の管理をしていて、一人の方が何度も連続して通すと2回目以降は無効となります。必ず一度で入館 退館してください。再入館は可能です。

### 3．利用講習会について

図書館では、図書館を有効に使っていただけるよう、利用講習会を計画しています。OPACの使い方、文献検索のしかたなどを説明します。詳しくは館内の掲示等でお知らせします。どうぞご参加ください。

- 4 . 2007年度新規購入外国雑誌タイトル
- 1 ) Annals of Dyslexia ( Online は current のみ利用可 )
  - 2 ) Annals of the Rheumatic Diseases
  - 3 ) Apoptosis
  - 4 ) British Journal of Ophthalmology
  - 5 ) Journal of Cognitive Neuroscience ( Online は1999年以降利用可 )
  - 6 ) Journal of Heart Valve Disease
  - 7 ) Paediatric Anaesthesia ( Online は1997年以降利用可 )
  - 8 ) Toxicology and Industrial Health
- 5 . 2007年度新規購入国内雑誌タイトル
- 1 ) Derma ( Monthly book derma )
  - 2 ) 救急・集中治療
  - 3 ) リウマチ科
  - 4 ) Visual Dermatology
- 6 . Science Magazine Online を契約
- Science 誌を学内ネットワーク経由で利用できるように、オンライン購読契約をしました。

## 図書館業務日誌

平成19年 2 月

- 9 日 ( 金 ) サンメディアセミナーに館員出席  
( 於、千里ライフサイエンスセンター )
- 14 日 ( 水 ) 内部監査実施
- 15 日 ( 木 ) 多目的作業室書架設置工事
- 26 日 ( 月 ) 図書館合同運営委員会 ( 於、図書館館長室 )
- 28 日 ( 水 ) End Note セミナー ( 於、講義実習棟講義室 )

3 月

- 1 日 ( 木 ) 図書館内無線 LAN 利用開始
- 12 日 ( 月 ) 教育研究情報大学共同購入機構全体会議に館員出席 ( 於、早稲田大学 )
- 20 日 ( 火 ) 内部監査実施
- 24 日 ( 土 ) 図書館ブックディテクションシステム工事

4 月

- 21 日 ( 土 ) 日本看護図書館協会総会 ( 於、大阪市立大学医学部看護学科 )
- 23 日 ( 月 ) 図書館合同運営委員会・P D C A 委員会 ( 於、図書館館長室 )

5 月

- 22 日 ( 火 ) 日本医学図書館協会近畿地区例会 ( 於、滋賀医科大学 )
- 28 日 ( 月 ) 図書館合同運営委員会・P D C A 委員会 ( 於、図書館館長室 )

- 31 日 ( 木 ) 日本医学図書館協会総会 ( 於、大宮ソニックシティ )

6 月

- 1 日 ( 金 ) 同 上

## 編 集 後 記

高槻が生んだ幕末の漢詩人藤井竹外は、慶應2年（1886年）6月に60歳で亡くなりました。彼は生前こよなく酒と竹林を愛した人で、また鉄砲の名手でもありました。竹林に降り注ぐ陽光や吹く風、降る雨も皆心地よいものであります。さて、今回の表紙は流星をモチーフにOMCをアレンジしてみました。

皆様からの投稿記事を歓迎いたします。OMNIBUS に対するご意見もお寄せ願います。（門田）

OMNIBUS「大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報」

No.31号 2007年6月15日 発行

編集・発行 大阪医科大学図書館

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL (072) 683-1221

(内線2799, 2621)

印刷 大日本印刷株式会社